

【県政史料室企画展「公文書に見る近代の城郭」関連講座】

明治時代の城郭

日時 令和元（2019）年 12 月 12 日（木）午後 2 時～午後 3 時

会場 県庁北新館 5 階 5-A 会議室

問合せ先 県政史料室（滋賀県総合企画部 県民活動生活課 県民情報室内）

電話：077-528-3126／FAX：077-528-4813／E-mail：kenmin-j@pref.shiga.lg.jp

参加無料・申込み不要



期間 2019年10月28日(月)～2020年1月23日(木)

会場 滋賀県庁新館3階 県民情報室内県政史料室(内線3126)

滋賀県内には、貴重な城郭跡が数多く存在しています。江戸時代が終わるまでは、武士にとって権威の象徴であり藩政の中心でもあった城郭でしたが、明治維新による廃藩置県などによって城郭はそれまでの機能を失い、建築物としては「無用の長物」と化して、その多くが廃城となっていきました。

一方、その機能が存続した唯一の例として、現在は天守が国宝に指定されている彦根城が挙げられます。彦根城は陸軍省の管轄として維持されていましたが、老朽化のため民間へ売却され破却となる予定でした。しかし、明治11年の明治天皇行幸の際、供奉していた参議大隈重信や地元の人々の熱意により天守や櫓の保存が決定、さらに陸軍省所管から皇室付属地彦根御料所となったうえで、明治22年には最後の彦根藩主であった井伊直憲に下賜され、保存されることになりました。今回の講座では、明治維新後の廃城から近代になって保存の対象となるまでの、城郭がたどってきた変遷を紹介しますので、ぜひお越しください。